

I. 狭山丘陵のカエルについて

池谷文夫・池谷楽子

はじめに

カエルは日本人に古くから親しまれてきた里山の動物である。日本のカエル類の多くは、稲作による田んぼの拡大によって繁栄してきたと言われ、狭山丘陵に生息するカエルもその例外ではないが、近年は一部の種類を除き子供たちがオタマジャクシに接することが困難なほど減ってしまった種もある。

狭山丘陵は古多摩川の侵食によって武蔵野台地上に孤立した丘陵で、大小様々な侵食谷が多数発達している。かつてはこれらの谷戸のほとんどに田んぼが存在し、丘陵から離れた場所からもカエルの声が聞こえたものである。しかし、現在は規模の小さな田んぼが14カ所しか残っておらず、カエルの生息地そのものが極端に減少した状況にある。

狭山丘陵のカエルに関する報告は、「さいたま緑の森博物館」や「都立野山北・六道山公園」に関連した調査報告が断片的に見られるだけであまりない。筆者の一人はこれまでにトトロのふるさと財団調査委員会が実施した「西久保田んぼ」、「岸田んぼ」、「菩提樹池」の調査で両生類を担当してきたが、まだ十分な成果を得られていないためその後も継続してカエル類の調査を行ってきた。

カエルは両生類であるが故に、水辺や樹林地で構成される良好な里山の環境指標種として注目に値する生物である。また、環境教育などの教材として、狭山丘陵におけるカエル類の分布やその生態に関する知見を集積しておくことは有意義と考える。

1. カエルの分布

1) 調査方法

調査対象とした場所は、狭山丘陵周囲のカエル類が生息していると思われる湿地や田んぼ、池などの水辺である。埼玉県側が入間市2カ所、所沢市7カ所、東京都側が東村山市2カ所、武蔵村山市10カ所、瑞穂町4カ所で合計25カ所を選定した(図I-1)。

調査は関東の平野部で一般的なカエルの繁殖期と考えられる1999年2月から7月に実施した。この調査期間内に対象とした各水辺を約2週間に1度の割合で踏査し、卵塊や幼生、上陸直後の幼体、成体(鳴き声も含む)の発見に努めた。

表I-1に各調査地の調査期間を示した。また、併せて各調査地の写真を掲載した。

図 I-1 調査地

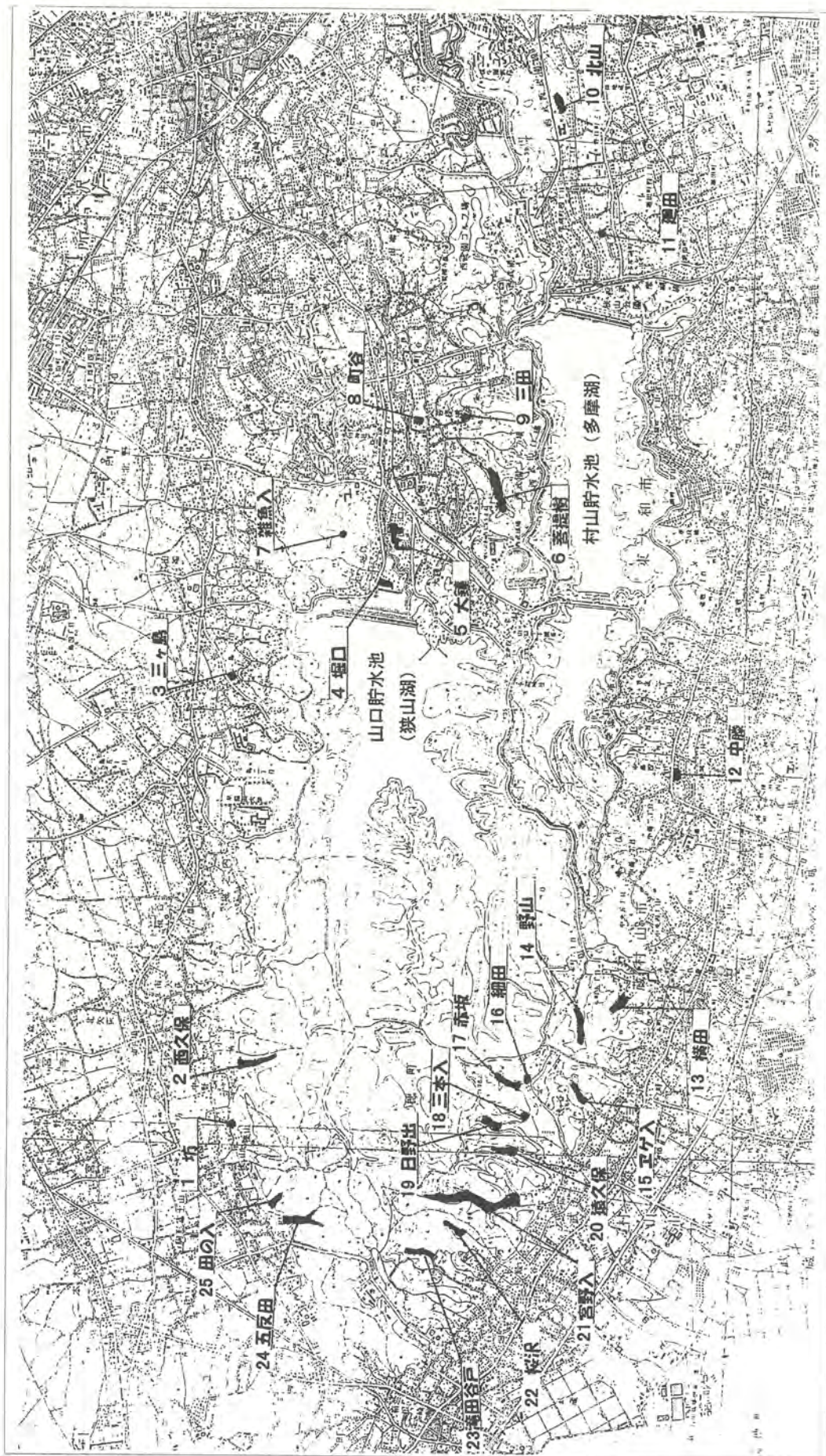


表 I - 1 調査対象地

No.	谷戸・ 田んぼ名	調査期間 (1999年)	水辺の環境				
			流れ	湿地	湿田	乾田	池
1	坊	2月～7月			湿田		
2	西久保	2月～7月	流れ	湿地	湿田	乾田	池
3	三ヶ島	5月～7月	流れ			乾田	
4	堀口	5月～7月				乾田	
5	大鐘	5月～7月				乾田	
6	菩提樹	2月～7月	流れ	湿地		乾田	池
7	雑魚入	2月～7月	流れ	湿地			池
8	町谷	5月～7月				乾田	
9	三田	5月～7月	流れ		湿田		
10	北山	5月～7月	流れ			乾田	池
11	廻田	5月～7月				乾田	
12	中藤	5月～7月			湿田		
13	横田	2月～6月	流れ	湿地			池
14	野山	2月～7月	流れ	湿地		乾田	池
15	エゲ入	2月～4月		湿地			
16	細田	2月～4月		湿地			
17	赤坂	2月～4月	流れ	湿地			池
18	三本入	2月～4月					池
19	日野出	2月～4月					池
20	猿久保	2月～4月	流れ	湿地			
21	宮野入	2月～7月	流れ	湿地	湿田	乾田	池
22	桜沢	2月～4月	流れ				池
23	滝田谷戸	2月～4月	流れ	湿地			池
24	五反田	2月～4月	流れ				
25	田の入	2月～4月	流れ	湿地			

※ 水辺環境の「流れ」は、自然の流路又は人工的な水路。
 ※ 水辺環境の「湿地」は、ほとんどがかつて田んぼであった休耕田。

表 I - 2 カエルの分布調査の結果 (1999年)

No.	谷戸 田んぼ名	ニホン アカガエル	ヤマ アカガエル	ヒキガエル	シュレーゲル アオガエル	アマガエル	ウシガエル	トウキョウ ダルマ ガエル	種数合計
1	坊	○△□	●▲□		○△□				3種
2	西久保	○△□	●▲□	●▲■	○△□			□	5種
3	三ヶ島				△□	□		□	3種
4	堀口					▲■			1種
5	大鐘					▲■			1種
6	菩提樹	●▲■	△	○△□	○□				4種
7	雑魚入	○△□	●▲	●▲					3種
8	町谷				△□				1種
9	三田				△□				1種
10	北山		△		□	△□		□	4種
11	廻田				○△□				1種
12	中藤					△□			1種
13	横田	○△□	○△□		○	□			4種
14	野山		○△	●▲■	○□	□			4種
15	エゲ入		○□						1種
16	細田		○△	○					2種
17	赤坂	○□	○△□	○					3種
18	三本入		○□						1種
19	日野出		○△				□		2種
20	猿久保		△	○△					2種
21	宮野入	○□	●▲■	○□	○□	□			5種
22	桜沢	○△	○△		□				3種
23	滝田谷戸		○△						1種
24	五反田		○						1種
25	田の入		●						1種
場所合計		8カ所	18カ所	8カ所	12カ所	8カ所	1カ所	3カ所	—

※ ○は卵塊、△は幼生、□は成体を示し、黒く塗りつぶした記号はその数が多かった(2~3桁)ことを示す。

写真1 狭山丘陵で生息記録のあるカエル



アズマヒキガエル♂ 入間市宮寺産



ツチガエル♂ 町田市図師小野路産



ニホンアマガエル♂ 所沢市山口産



シュレーゲルアオガエル♂ 入間市宮寺産



ヤマアカガエル♂ 入間市宮寺産



ニホンアカガエル♂ 入間市宮寺産



トウキョウダルマガエル♀ 入間市宮寺産



ウシガエル亜成体 入間市宮寺産

写真 2 a 調査地の景観



1. 坊



2. 西久保



3. 三ヶ島



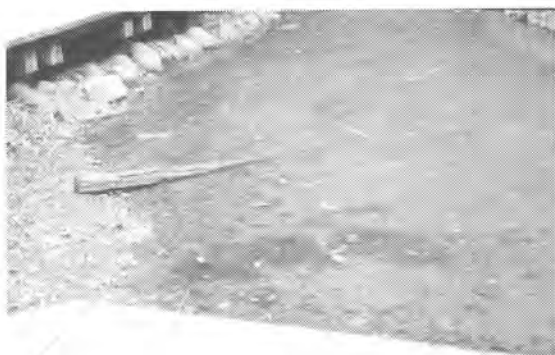
4. 堀口



5. 大鐘



6. 菩提樹



7. 雑魚入



8. 町谷

写真 2 b 調査地の景観



9 . 三田



10 . 北山



11 . 廻田



12 . 中藤



13 . 横田



14 . 野山



15 . エケ入



16 . 細田

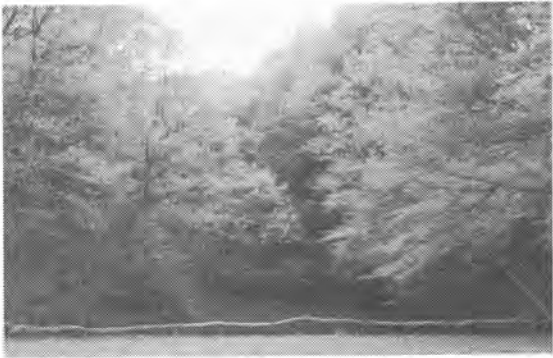
写真 2 c 調査地の景観



17. 赤坂



18. 三本入



19. 日野出



20. 猿久保



21. 宮野入



22. 桜沢



23. 滝田谷戸



25. 田の入

2) 調査結果

結果を表I-2に示した。

狭山丘陵でこれまでに記録のあるカエル類は、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、アズマヒキガエル（以下ヒキガエル）、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル（以下アマガエル）、ウシガエル（外来種）、トウキョウダルマガエル、ツチガエルの8種である。今回の調査ではこの8種の内ツチガエルを除く7種の生息を確認した。

種類別にみるとヤマアカガエルは18カ所と最も多くの調査地で生息が確認され、18カ所であった。以下、シュレーゲルアオガエルが12カ所、ニホンアカガエル、ヒキガエル、アマガエルの3種は8カ所で確認された。トウキョウダルマガエルは3カ所、ウシガエルは1カ所であった。

調査地についてみると、調査した25カ所全てで1種以上のカエルの生息を確認できた。調査地別の種数は、西久保や宮野入を例としてみられるように、水辺環境が多様であるほど生息する種数が多い傾向があった。しかし、調査地の半数近くになる11カ所では1種が生息しているだけであった。この内の5カ所の調査地は、シュレーゲルアオガエルかアマガエルが生息していただけで、特に生息地の環境が乾田だけになるとアマガエルだけが生息していた。この2種は、樹上性のため手指に吸盤を持つ種である。他の6カ所はヤマアカガエルだけが生息していた。その生息地は休耕田になって久しい谷戸地で、乾燥化が進んだ谷戸であった。

田んぼへの依存度が高いと言われているトウキョウダルマガエルは3カ所で確認できたが、その数は大変少なく丘陵での絶滅が危惧される種と思われた。ツチガエルに至っては生息の確認すらできなかった。

なお、この調査から6年経過した現在、分布に若干の変化がみられる。特に、トウキョウダルマガエルが後退し、外来種のウシガエルの進出が目立つ。狭山丘陵は東西が11km、南北が4kmもあり、カエル数の主要な生息地となる大小様々な谷戸地は多数にのぼる。丘陵全体での分布を把握するために、今後、多くの人の協力を仰ぎたい。